

## 模擬試験が5教科になった意味

・・・意識と学習法を変えよう！

### 模擬試験が5教科になった意味

2年生の秋になって、模擬試験にも理科・地歴公民が登場しました。できばえはどうだったでしょうか？ 定期考査とは違って、出題範囲が広いので、前に習ったことは忘れてしまっていた人もいないのではないのでしょうか。そろそろしっかりとした準備が必要になってきます。本当ならば3分の5倍の負担増なわけですから、家庭学習の時間も3分の5倍に増やせばいいのですが、ほとんどの場合、それは不可能です。ではどうすればいいのでしょうか。

#### 1. 5分の3の時間で、同じこと・それ以上のことができるように、自分を成長させよう。

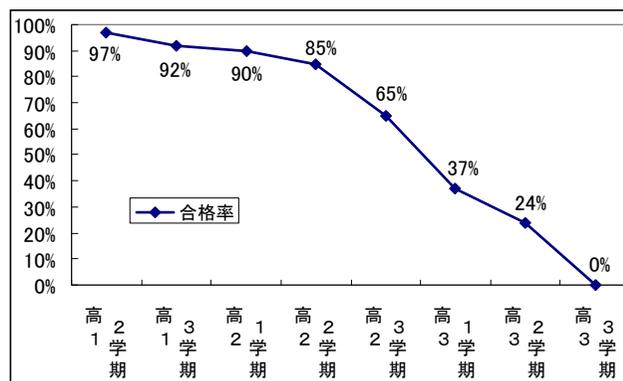
単語力がつけばつくほど、1ページあたりに辞書を引かなければならない単語は減ってきます。5分の3の時間で同じ量が訳せるようになります。また計算力がつけばつくほど、ドリル的な問題ならば、問題集1ページを解くのにかかる時間は5分の3で済みます。さらに、受験勉強を考えると、英語の場合だと、全文を丁寧に訳すよりも、ポイントとなる単語と、文の構造だけ確認して、どんどん次へいったほうが良い場合がでてきますし、数学の場合だと、難問に出会った場合、長時間をかけて悩むよりも、模範解答をちらっと見て、解法だけ確認してから、答えを伏せて解いてみた方が良い場合がでてきます。要は「対時間効率」を意識した学習になっていくということです。

#### 2. 今のうちに予復習以外のメニューを入れてみよう。

3分の5倍のことをやらなければならないのに、どうして予復習以外の時間がとれるのかと思うかもしれませんが、今、3年生はどういう勉強をしているかという点、受験勉強90予復習10ぐらいです。3年生の部活動引退ぐらいの時期では受験勉強50予復習50ぐらいですから、先輩達も少しずつ、受験勉強を組み込んでいったのです。以前にも載せましたが、右のグラフを見てみるとやはり高2の3学期までに大学入試に向けて何らかのスタートを切らないと、高3から始めたのでは、合格率が大きく下がってしまいます。なぜ下がるかというと、今日から受験勉強をしようと決意して始めても、ペースが分からなかったり、的を射ていないことをやっていたり、必ず試行錯誤がつきまとい、実際、本格始動するのは2ヶ月後とかになるからです。赤本を解くだけが受験勉強ではありません。「模試の解き直しをする」、「自分は英単語が弱いから1年生のときに使った単語集を1日50個ずつ覚え直す」、「自分は数学ⅡBが苦手になってきているので、もう一度チャートの基本例題を1日5題ずつやる」などと決意したら、それはもう立派な受験勉強です。さらにそれが5分の3の時間でできるようになれば、無理なく受験勉強の時間は増やせます。

#### 3. 授業で使用している問題集を信じて取り組む。

大学入試に向けてスタートした時期と合格率



多くの問題集に手を出す人がいますが、効率的ではありません。1冊を完璧に仕上げることが大切です。授業で使っている問題集は信頼できるものです。

#### 4. 長期的な計画をたてる。

今までに習った範囲をどのように復習すればいいのか、一度長期的な計画を立ててみましょう。そしてその計画を実行してみると、反省点や軌道修正すべき点などが見つかりやすから、それを直していくことで、長続きする勉強法につながっていきます。

### 3年生の模擬面接を終えて

10月から11月に、推薦入試で面接のある3年生を対象に、模擬面接を行いました。模擬面接を終えてわかったことは、「付け焼き刃ではだめ」ということです。目立った問題点と、2年生が今から心がけなければならないことを挙げておきますので、参考にしてください。

#### 問題点① 志望理由がきちんと話せない。

- 自分の勉強したい分野は何か、大学で特に深く学びたい内容は何か、なぜその学問に関心を持つようになったのか、大学卒業後はどういうことをしたいのかなどについてきちんと言語化しておきましょう。
- 各大学の学校案内パンフレットを読んだり、先輩に話を聞いたりして、志望する学校についてよく調べておきましょう。オープンキャンパスには必ず参加しておきましょう。

#### 問題点② 基礎的な教養や社会常識の不足が目立つ。

- 全ての教科の授業で習う内容が、基礎的な教養になるのです。理解せずに板書を写すだけ、消化せずに暗記するだけ、という学習方法では教養として身につくはずがありません。家庭基礎や保健も含めて、学習した内容を本当に理解し、消化しているか、確かめてみてください。
- 面接では時事問題についてよく質問されます。1年以内に起こった有名な事件や社会的に問題となったことは当然知っておかなければなりません。これは社会常識といっても過言ではありません。今日からでもすぐ、テレビのニュース番組を視聴したり、新聞を毎日読むなどして、社会の問題に注目するようにしましょう。特に自分の志望する分野の内容のドキュメンタリー番組、記事などは、自分の志望動機をさらに強固なものにしてくれます。

#### 問題点③ 敬語できちんと話せない。

- 「あのう、わたしはあ」「めっちゃ、興味あって」など、面接で緊張すると、普段の話し言葉がそのまま出てしまいます。自分のことを「私」と言わずに「〇〇はね、」と自分の名前で言っている人や「自分は」と言っている人は、「私」という言葉を口にするだけでも余分な緊張と注意が必要になってしまいます。普段から話し言葉に気をつけましょう。
- 難しい敬語は使わなくてもかまいませんが、最低「です、ます」は自然に使えるようにしておいてください。普段から先生や先輩と話す時には「です」「ます」できちんと話すようにしましょう。

※ 裏面に進路希望調査第2回の質問欄よりQ&Aを載せた。

## 進路希望調査の質問欄より

進路希望調査の質問欄より代表的なものに答えてみました。ただし重複するものをまとめたり、一部改変したりしています。また、ここに載せきれなかったものも多数あります。個別に進路指導部まで相談に来てください。

### Q：受験勉強のやり方について悩んでいる。

A： 日々の授業の学習方法や、部活動との両立、また、受験勉強の始め方などに悩んでいる人もいます。まず、毎日の学習については、とにかく授業に集中すること、予復習を欠かさないこと、この二つをやり切ってください。部活動との両立に悩む人も多いのですが、先輩たちの体験談からは、スキマ時間を有効に活用していることがわかります。また、部活動で疲れているときに、「ちょっと休憩してから…」と思っても、ほぼ100%寝てしまいますので、「休憩はやることをやっから」が鉄則です。「寝るときは寝る」「やるときはやる」というメリハリを大切にしましょう。学習塾へ通うかどうか迷っている人もいますが、学校の勉強がうまくいっていないときに塾へ通うようになると、ほとんどの人が課題の量に溺れて成績を下降させてしまいます。まずはしっかりと予習・復習し、わからないところを質問するなど、基礎基本を徹底して、学校をフル活用しましょう。受験勉強というと何か特別な勉強があるように思いますが、実際には普通の授業や小テストの延長が受験であり、授業で習ったことをきちんと活用できるようになれば、どの大学にも合格できます。大切なのは、小テストをクリアすればすぐ忘れてしまうような「その場しのぎ」でなく、「できるようになろう」「やってみよう」と考えて授業を受け、課題を解き、小テストの勉強をすることです。それが受験勉強です。

### Q：自分の学力で志望校に行けるかどうか不安です。

A： 2年生のうちは、志望校との距離が掴めず、不安に思うことがあるかも知れません。一つには、校内で受験するベネッセの模擬試験の成績を確認してみましょう。自分の学習到達ゾーン（GTZ）と、目標とする大学のGTZの目安がわかれば、参考になるでしょう。各大学の合格目標ゾーンについては、教室に掲示してあるはずですが（無ければ進路指導部まで来てください）。また、模試のたびに志望校判定が出ますので、それも目安になります。ただし、DやE判定が出てもすぐに志望校を変えるのは早計です。今は志望校への距離を意識するより、とにかく基礎を徹底的に固めて、しっかりした学力の土台づくりをするのが何より大切だと言えるでしょう。

### Q：やりたいことが決まっていない／将来の夢が決まっていない／大学で何ができるのかわからない

A. 質問のなかで一番多かったのが、「将来のことが決まっていない／決められない」というものでした。また、いまは決まっているという人のなかにも、「絶対にここに行きたい」という強い覚悟のある人は少ないのではないのでしょうか。

まず、将来への不安や恐れは思春期に抱きやすい感情であり、ある意味では青春の特権とも言えるものなので、「将来のことが決まらない」と悩むのは当然のことです。先行きが不安になるのは、逆に言えばそれだけ可能性が広がっているということでもあるのです。ただし、「決まらない」からと言って「何もしない」わけにはいきません。大切なのは、とにかく調べることです。大学への進学を希望するなら、どんな大学があるのか、大学では何ができるのか、受験して入学するにはどうすればいいのか、大学のホームページを調べたり、オープンキャンパスに行ったりして、積極的に情報を収集しましょう。

情報があふれている世の中なので、私たちは「オススメ」を求めがちです。選択肢が多すぎて、自分では選べない気がするからです。一般的に「オススメ」なのは、やりたいことが明確になったときのために、なるべく社会的評価の高い（＝入学するのが難しい）大学に進学することです。また、そのためにはなるべく学力を高めておくことです。やりたいことが決まっていない人ほど、一生懸命学習しておくほうがいいのです。ただ、「オススメ」される人生なんてつまらない、とも思います。ひたすら悩んで、調べて、相談してください。「決められない」ことに悩んで足を止めるのではなく、少しでも気になったことをすべて実行する勢いで、とにかく行動してください。そうやってあがいているうちに、答えが見つかることもあります。見つからなくても、あがくしかないのです。

### Q：進路の最終決定はいつですか？

A： 一般には、まず2年生11月の模試が5教科になる時期に、自分は何を受験科目として、どういう攻め方をするのか、しっかりと答えなければなりません。そのあと、進路ホームルームでも、受験生宣言をしたり、志望理由書を書いたりします。そして、もう1つは3年生5月です。2年生では模試で5教科受けても、機械的に計算された偏差値に基づいて判定されますが、これ以降は、模試は志望校の配点を考慮した偏差値になり、マーク模試を共通テスト、記述模試を2次試験に見立てたドッキング判定も出るようになります。ですから遅くともこの時期には、進路が決定されているのが望ましいといえます。

ただし、同じ受験科目・分野ならば、共通テスト後に自己採点の結果が出てから出願校を決定できるので、現実的かつできるだけ高い目標を目指すことを考えよう。

### Q：海外の大学の受験方法について教えてほしい。

A： 洛北高校から海外の大学を受験する人はほぼ毎年います。過去には、世界最難関と言われるミネルバ大学に合格した人や、「北のハーバード大学」とも呼ばれる、カナダのトロント大学に合格した人もいます。進路指導部でも相談に乗りますが、総務企画部が一番、情報をもっています。海外の大学については、受験方法も受験時期もさまざまなので、「どの国のどの大学をどういう形で受験したいのか」によって、事情が異なり、「このように受験すればよい」という決まった方法があるわけではありません。一度、進路指導部や総務企画部に相談にいらしてみてください。

### Q：やりたいことができる学科と、将来就きたい職業に必要な資格を自動的に取れる学科が違う時はどちらを選べば良いですか？／大学でやりたいことを優先すべきか、その後の将来を優先すべきかを教えてほしいです。

A： やりたいことを専門として学びながら、将来に繋がる勉強や必要な資格取得ができる、両立の道はないか調べてみましょう。大学は、頑張り次第で標準カリキュラム以外にも履修できるものがあります。ダブルスクールといって、大学に通いながら他の大学や専門学校の講義を履修する方法もあります。やりたい勉強を選択し、卒業後に資格取得のため短期間大学に入り直す人、大学院で資格取得を目指す人もいます。教員免許などは、大学のHPやパンフレットに載っていない教科も取れることがあります。それでも両立が難しい場合や、中途半端になりそうな場合は、どちらを諦めた場合に自分が後悔するか、代替案はないかという取捨選択になります。一概に答えるのは難しいので、一度相談に来てみてはどうでしょう。

### Q：今の学力で第一志望が目指せるかを知りたい。／数学が苦手すぎるので、受験科目で数学を取らなくても済むところを志望したいです。

A： 「今の自分で行ける場所」を探す人にならないでください。「行きたいところに行ける自分」になろうとしてください。努力して、自分を成長させることを大前提として考えましょう。その上で、希望進路に手が届く自分になるにはどうすればよいかを考えてほしいです。まだまだここから取り組み次第で大幅に成長しますよ。そのお手伝いをさせてください。そうでないと、将来、どこにも存在しない「今のままの自分に合う満足いく仕事や職場」を探そうとして、出口のない不満のトンネルに入ってしまいかねません。

### Q：推薦までの流れがあまりわかっていないのですが、いつ動き始めたらいいですか？／総合型選抜の受験を考えていますが、どのくらいからどのような準備をすればいいのか／特色入試も視野に入れたいのですが、今のうちにしておくとお利になることはありますか。

A. 国公立・私立とも、3年の夏に志望理由書を書き、夏休み明けに校内の説明会に参加し、9～11月の大学が指定した時期に出願し、受験するという流れになります。指定校等のリストも夏明けに提示されます。現在、学校推薦型と総合型の選抜は非常に多様化しています。出願期間も入試時期もバラバラのため、気になる大学については、早期に「学生募集要項」を検索して確認しましょう。準備に関しては、2年生の間に「明確で具体的な志望理由」「大学卒業後の将来像」を自分の中に明確化することが必要です。そして、今のうちに様々な体験プログラムや資格試験、調べ学習などに意欲的にチャレンジしましょう。直接将来に関連しないものでも構いません。多様な経験と積極的な態度の伸長は必ず自らの力になります。